第104号
2024/1

PVかながわ ニュースレター

Report

うれしい出前講座の展開
～ソーラークッカーランチのご招待～

昨年は半年以上かけてうれしい展開をした講座があった。4月近くの小学校の4年4組の先生から「災害で電気やガスが止まっても温かい料理を作れるソーラークッカーに総合学習で取り組むので協力してほしい」と相談があった。子どもたちが自分で調べて試行錯誤した上でアドバイスをもらいたいという話であった。

しばらく連絡なく過ぎたが、7月に100円ショップの材料で作るソーラークッカー「ききょう」の工作教室のお知らせをしたところ、3人の児童が申し込んでくれた。9月半ばには先生からクラスで講座をしてほしいと依頼があった。子どもたちの中にもっと知りたい！という気持ちが高まったとのことだった。

10月初めの出前講座では「ききょう」の作り方を紹介し、屋上にいろいろなクッカーを並べてどんな料理を作れるか説明した。また、ソーラークッキングは災害時に役立つだけでなく、二酸化炭素を出さず地球温暖化防止の役に立つこと、太陽エネルギーだけで料理するから平和にもつながるという話もした。電気やガスを作る石油や石炭などの資源の奪い合いから戦争や紛争が起こることが多くあるからと。地球温暖化や平和とのつながりは4年生には難しすぎたかと心配したが、後日いただいたアンケートからは多くの子が私の言いたかったことを分かってくれていて、子どもの理解する力、新しいことを吸収する力に感動した。アンケートには多くの具体的な質問も書いてあり、わかる範囲で回答を作ってクラスに郵送した。

また後日の授業で、私が紹介した「ききょう」を児童みんなが作ったとのことであった。

その後11月に児童から電話をもらい、「ソーラークッカーランチ」にご招待いただいた。先生が市のエコパークから大きなソーラークッカーを借りて、子どもたちがカレーとごはん、ジャーマンポテトを作り、とても上手に完成していた。各自の「ききょう」で作ったカップケーキは11月なので上手く膨らまなかったけれど、「もっと工夫してまたチャレンジする！」とみんな意欲満々だった。

半年以上かけて太陽エネルギー利用に取り組んでくれた児童のみなさん、先生に感謝の気持ちでいっぱいである。（北村記）

世話人から

連絡事項

昨年は温暖化影響による、気象の極端化が顕著になった一年のように感じられました。今年も微力ながら再生可能エネルギーの普及に貢献できるような活動ができればと思いますので、本年もよろしくお願いいたします。

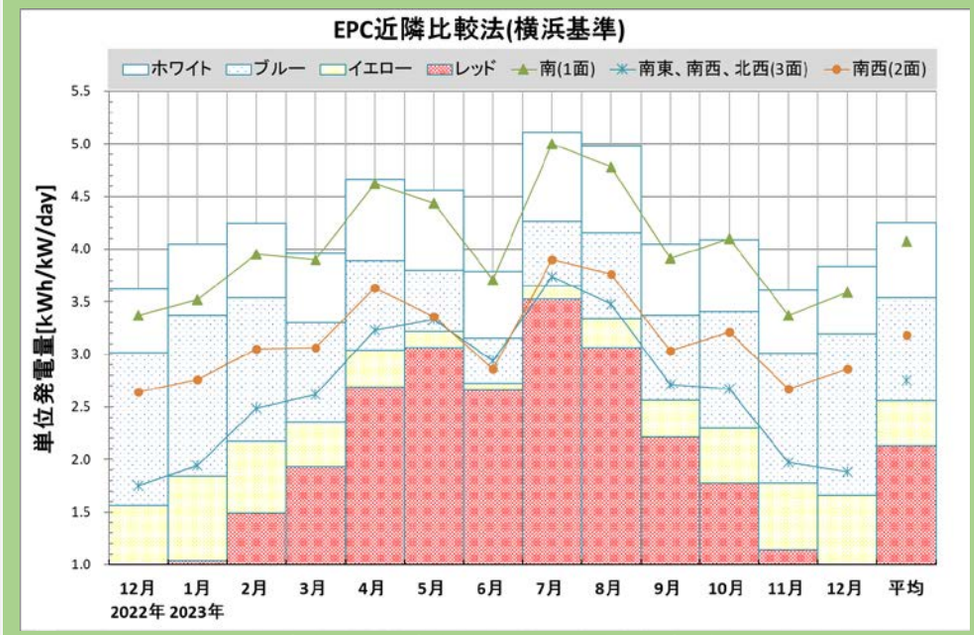
「フォーラムPVかながわ2024」は1月末頃にはテーマ、講演内容を絞り込み、5月連休明けを目途に開催に向けた検討を進めております。

今後の予定

「みんなでSDGs！」
日時：令和6年2月10日(土)
10:00-11:00
会場：大沼公民館
対象：小学生

「アーバンアートほどがや展示」
日時：令和6年2月23日(金)～
3月7日(木)
会場：JR保土ケ谷駅3F
改札前の展示コーナー

今月の単位発電量！



2023年の日本の天候は「年平均気温は全国的に高く、特に北・東・西日本で記録的な高温となり、秋は西日本太平洋側で記録的な少雨多照となった。」でした。その中で12月は「月平均としては寒気の影響が弱く、東日本では月平均気温がかなり高かった。上旬後半からは、寒気が顕著に弱かった一方、中旬後半から強い寒気が流れ込んだため、全国的に気温の変動が大きく、大雪となった所があった。降水量は、低気圧や冬型の気圧配置の影響を受けやすかった東日本日本海側と沖縄・奄美で多く、影響の弱かった北・東日本太平洋側と北・西日本日本海側では少なかった。日照時間は、冬型の気圧配置や高気圧の影響で晴れた日が多かった東・西日本太平洋側で多かった一方、低気圧や寒気の影響を受けやすかった沖縄・奄美では少なかった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。